

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

## 西都の魅力PRポスターを制作しました！

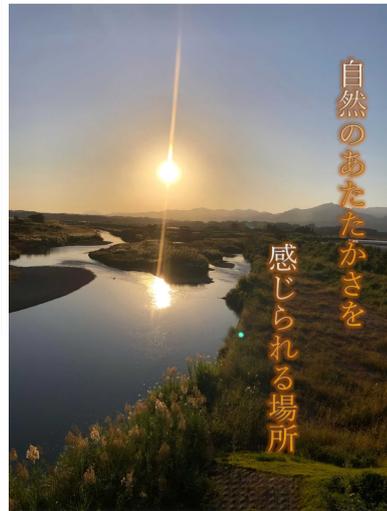
西都市では、児童生徒による郷土の魅力表現する作品を対象にした「こどもふるさと Sight 展」が開催されています。本校の生徒たちも故郷西都にちなんだ絵画や習字、立体作品などを制作・表現してくれました。中でも西都の魅力的な風景

風景を自分で撮影するなどし、それにキヤッチコピーを乗せた郷土PRポスターは、美術科の指導もあって実に独創的で見事な作品が多かったです。職員・生徒による選考と投票で選ばれた右の6作品は、看板にして校門横のフェンスに展示しますので、ぜひご覧ください。



夕日に沈む西都  
たくさんの歴史のロマンが眠っている

← 矢野遼介さん・2年



自然のあたたかさを  
感じられる場所

→ 斎藤拓也さん・3年



私のふるさと  
西都市

← 織田有梨花さん3年



力いっぱい輝ける目を  
この町で迎えたい

→ 田中葵彩さん・3年



毎日変わる  
町の姿  
いつまでも変わらない  
人の温かさ

← 中尾海斗さん・3年



ここから始まる  
神話の里の物語

→ 河野裕介さん・1年

JA書道展

特別賞  
金賞

崇高な理想

二年 本部 佑佳

新年 謹賀

虚懐心

三年 児玉心花

新春子供作品展  
優秀賞

西都見湯の子どもによる絵画展  
銀賞の作品

矢野遼介さん2年



河野亜海さん3年

星原礼さん2年

# はよげの三学期がスタート！

# 頑張れ、三年生！

令和6年がスタートしました。能登半島地震や羽田空港の事故など痛ましいニュースが流れる年明けとなりましたが、同時に避難時への備えや冷静な行動、そして主体的な判断などの大切さが再確認される出来事でもありました。

教育界では少し前から「主体的対話的で深い学び」の推進が提唱されています。本校でも対話的な学びが促進されるよう、始業式などでは対話による意見表明の場を設けています。対話の中には生徒の経験や考え方、習得した知見などが凝縮されるのですが、今回も中々感慨深い発言がありました。3年生からは、残り少い仲間



始業式での対話

## 北海道と宮崎の違い

下の写真は3:30に撮影しました。日本東端の根室市は日没が3:45、16:30には真っ暗です。



北海道と宮崎では緯度も異なるため、太陽光パネルの角度も随分違ってきます。

北海道（左）と宮崎（右）のソーラーパネル



との時間をどう過ごすかについて「明日死んでもいいという今日をいくつ創れるか」という表現がなされました。仲間との時間をいかに大切にしたいかを感じます。

3年生では入試に向けて面接の練習が行われていますが、これは現時点でのマイ・キャリアプランを、これまで習得してきた知見とスキルをフルスペックでアウトプットする場でもあり、ある意味ペーパー試験と並ぶ義務教育の集大成でもあります。アウトプットやプレゼンのスキルは、社会人になってからも一生涯必要です。今年の3年生たちは、このスキルがかなり高いと感じています。下級生も含め、スキルを更に高めていけるよう意識していきたいと思えます。

## 三真の轍 わたち

### 「学び方の変化」

年末、県内の中高生十七名を引率して北海道・根室市へ研修に行く機会がありました。現地の大人や高校生との対話的な学びや視察、体験をして考えたことを、夕方以降にまとめ、共有する四日間を過ごしましたが、従前とは質の違う学びの整理法や表現法を使う中高生を見て、県内各地の学校でそれぞれ工夫された教育が展開されていることを実感したので紹介します▼書き殴りのメモを名刺サイズのカードに再整理。ここで考えたことはいつどのような形で役に立つかわからない。いつでも必要な時にとりだせるように「情報生産カード」と名付けた名刺大のカードに整理しジャンルごとに分類して保管するのだそうです▼タブレットに写してメモを書き込む。動物や風景、ホワイトボードの記録をタブレットで写真にとり、その写真にマーカーを引いたりメモを書き加えてデータで保存。時短と効率化を強く実感▼スピーチの骨子はスマホで作成。感想や意見の発言場面を与えると、多くの生徒が事前に発言の骨子をスマホで作成し、スマホを時折見ながらスピーチしていくことに少し驚愕▼思考ツールを使って学んだ内容を整理。一日目の夜、学んだ内容を思考ツールを使って整理することを提案してみた。早速ウェビングマップやくらげチャート、Yチャート、フィッシュボーンで整理する生徒が現れ、教科書にも紹介されているこうした思考ツールが授業でも活用されているのだと実感▼全体的を通して「紙とICTのハイブリットの有用性」や「学びをアウトプットするスキルの高さ」を実感。自分の考えを、自分の言葉で、自分の成長ストーリーに乗せて論理的にスピーチする生徒たちの姿に接し、わが妻中の生徒にも意図的な刺激やしかけが必要だと改めて実感しました。（校長 伊東泰彦）

カードを使って各自の意見を共有する様子



他県の生徒との対話的な学び

